

会長便り

国際資源学部、理工学部の設立を祝す

菊 地 芳 朗 (GS34)



今年の冬は関東地方周辺が大雪となり、大きな被害が生じました。また、3月14日には愛媛県沖を震源とする震度5強の地震がありました。災害に遭われた皆様にはお見舞い申し上げます。

最初に昨年10月の「北光」で活動支援金のご寄付をお願いいたしました所、多くの皆様からご支援を頂き、3月31日現在2,366,226円のご芳志を賜りました。厚くお礼申し上げます。

皆様ご存じのように、この4月から工学資源学部は理工学部と改組され、新たに国際資源学部が設立いたしました。両学部につきましては本号で紹介されておりますが、特に国際資源学部の設立は、現在の文部科学省の制度の下では画期的なことで、社会的にも注目を集めているところであります。

両学部の設立を祝し、お祝い申し上げます。
両学部の同意会は共に北光会となることに決まりました。4月の新入生は北光会準会員となります。北光会はこれから両学部の発展に協力いたして行くことになります。皆様におかれましてもご理解を頂きご協力をお願いいたします。

3月22日卒業式終了後、恒例の新正会員歓迎会・大学院修了祝賀会を行いました。

歓迎の挨拶のなかで「我が国の経済も、ここに来て漸く明るい兆しが見えてきました。こう云う時に卒業される皆様は幸運なことと思います。皆さんは理学・工学を勉強されて卒業されました。最近気になることがあります。例のSTAP細胞です。今までの生物学の常識を覆すもので、病理学の解明に大変なものが出来たと思いましたが、画像のことなどで論文そのものに疑問が持たれるようになりました。今現在全てが解明している訳ではありませんが、理化学研究所の理事長であるノーベル賞授賞者の野依良治先生が「未熟な研究者がデータをずさん、無責任に扱った」と発言しております。この落差は何であったのでしょうか。14名の共同研究者がおりながら事前に問題点を発見できなかったことが残念です。皆様の多くは社会に出て仕事や研究をされ論文や報告書を作成することがあります。この様なことのないよう自覚と責任を持って頂くようお願いいたします。

母校・工学資源学部は平成23年に創立100周年を迎えました。皆様は100年の伝統ある母校から卒業されたという誇りと自信を持ってこれからの人生を歩んで頂きたいと思っております。

その後、STAP細胞の論文には画像のおつ造と改ざんがあった、と発表されました。STAP細胞は実在したのでしょうか。早期の解明が必要です。

さて北光会自体のことですが、3月の理事会のことにつきましては議事録をお読み頂くことにして、最大の課題は財政のことです。経費の節減など種々努力しておりますが、基本的には会費の納入率を上げなければなりません。この様な事情で、本号でも引き続き活動支援金の寄付をお願いしております。会員の皆様にはご理解頂きご協力をお願いいたします。また、新会員の連絡先が分からなく会誌や支部活動の連絡に支障をきたしていましたが、この度の歓迎会で後援準会員の協力を得てカードに記載をお願いしましたところほとんどの出席者から記載して頂きました。これはクラス幹事制度、グッズの販売、事務局長のブログ、学生クラス幹事ブログや準会員も参加した企業見学会等を行ったことで、準会員の北光会に対する理解が深まってきた結果と考えております。

東京支部の会員から、会員がお亡くなりになりましたら遺族からの寄付制度を作っては如何のご提案を頂きました。今までもご遺族からご芳志を賜っており、その都度「北光」に掲載しているところですが、この様な制度はアメリカなどでは行われていると聞いておりますが、我が国にはまだなじまない制度でもあります。大変有り難い提案ですので、3月の理事会で紹介いたしました。今後検討していきたいと思っております。

北光会は皆様の会費で維持されております。
会費納入率の向上にご協力ください。